



子ども記者クラブの活動を通して身に付く総合的な学力

京都文教大学臨床心理学部教育福祉心理学科准教授 **橋本 祥夫**

9月13日(日)に第2回の宇治子ども記者クラブを実施しました。参加してくれた子どもたちは、それぞれ学校も違い、最初は緊張気味でした。しかし、応募してくれただけあって、やる気満々。取材や記事の作成はとても積極的に取り組みました。

今回の取材は、平等院表参道商店会。日曜日ということもあって、たくさんの観光客が来ていました。まず、通りを一通り歩いた後、商店街の印

象を聞きました。3人とも一致したのが、「宇治茶に関するお店が多い」ということでした。その後、各自で取材を開始。お店の人やお客さんにインタビューをしたり、写真を撮ったり、3人とも自分が知りたいことにこだわって、熱心に取材をしました。取材が終わると、使う写真を考えたり、取材メモを基に記事の構成を考えたりしながら、自分の伝えたいことをわかりやすく伝える工夫を考え、記事を書きました。

子ども記者クラブの活動を通して、問題や課題に気付く力、情報を収集し探究する力、コミュニケーションの力、まとめる力、文章を書く力など、様々な力が身に付きます。そして、自分から進んで取り組む積極性が身に付きます。次回の子ども記者クラブも多数の子どもたちの参加をお待ちしています。



神戸から観光で来た家族にインタビュー



こうばしい香りがするほうじ茶の焙煎器

お茶の香りがすごい 平等院表参道



笠取第二小学校5年生 **安井 涼太 記者**

平等院表参道に行った。お茶の香りがする商店街だ。ほうじ茶の香りがして、近くにお茶をいっている山田園茶舗の人に話を聞いた。「上からお茶を入れて、下からほうじ茶が出る。お茶をばいせんしていただきます」と話していた。ガスで130度で加熱している。土日だけ機械を動かして、一日20分のほうじ茶を作っているというんです。ご主人は「いい香りなのでお客さんが喜んでくれる」と話していた。観音で家族と来られた高橋良武さんは、「中村藤吉に行った。商店街は、お茶の香りがすごい」とおどろいていた。平等院表参道を取材して、お茶の香りがすごかった。インタビューして、機械のことなど、いろいろなことを知ることが出来た。



宇治版の子ども記者クラブは今回2回目の取材にチャレンジしました。新たな記者も加わり、観光客で賑わう平等院表参道商店会をメモとカメラを片手に歩きました。

自ら取材先を見つけ、お話しを聞く。初めての相手に声をかけることは、とても勇気があることかも知れません。短い時間でしたが、子ども記者たちは出会いを大切に、「発見」を見事な記事に仕上げました。

宇治版の参加申し込みは、京都文教大学フィールドリサーチオフィス ☎25-2630。メール fro@po.kbu.ac.jp まで。



kyoto Bunkyo University 京都文教大学
文部科学省 地(知)の拠点
No.2

平等院表参道のふぜいある「とどう庵」



伏見南浜小学校5年生 **晴佐久 優花 記者**



かやぶきで「にじり口」のある茶室風の店

平等院表参道は、お茶の商品が目立つ、ふぜいあるふんいきの商店街です。その中に「とどう庵」というそう業約20年のお店があります。築100年のかやぶき屋根で、大きな松の木もある、ふぜいあるたたずまいです。私は、そこで働いている北尾映智さんに話を聞きました。とどう庵は、北尾さんのお父さんが始められ、今は北尾さんのお孫さんが働いています。

父さんが、昔ながらのものが好きだった為、お店は昔ながらのやさしいふんいきになっています。とどう庵の商品の中にも、おまっちゃん茶団子があります。特におまっちゃん茶団子を使っている為、おまっちゃん茶団子の色が、おまっちゃん茶団子から来た志賀さんは、通りかかった時に、とても良いふんいきだった為、とどう庵に入ったといます。またかき氷がおいしくて、よく来てくださる人もいます。北尾さんは、「また平等院に来た時によってくださるように、工夫していただきます」と話していました。



ごみ箱の形を調べる谷口記者



平等院表参道にあるごみ箱



抹茶アイス・こんにゃくゼリー



宇治らしさを出す工夫

宇治田原小学校5年生 **谷口 治貴 記者**

平等院表参道で折りたたみ式のごみ箱を見つけ、このごみ箱のことをよく知っている平等院表参道商店会の元会長古賀則行さんに取材した。これまで、世界遺産平等院に行く参道で観光客がたくさん通るにもかかわらず、ごみを道路に出さなければならず、ふさわしくないという意見が出ていたため、ごみがかくれるごみ箱を設置したという。

通常は約18センチほど、使うときには約90センチほどに広がり、ごみを上から見えない

ようにかくすロールも取り付けている。宇治らしさを出すため、源氏物語の絵を正面にデザインした。ほくは、宇治の景観を守るためにいろいろな取り組みがしてあっておどろいた。

古賀さんは『和夢魂』というお店をしていて、ざっかやまっ茶を使った食べ物やアイス・こんにゃくゼリーもある。「宇治らしいデザインのものをつくりたい」と話していた。



突然の取材に優しく対応してくれた北尾さん。お店の歴史などを伺いました。



古いドラを叩くと、茶室の奥からお店の人が...

も食べたくなりまし、また、とどう庵の方のお話を聞いて、とても食べたくなかったです。今度はお客さんとしてきたいなと思いました。